

依然として業況の停滞が続く

2月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

業種によりバラツキがあるが、全体として業況停滞が続いている。そうした中で約6年ぶりに製造業全体の天気図が「雨」となったことが特徴的。機械・金属で急激な落ち込みがみられ、米中貿易摩擦の影響の大きさがうかがえる。非製造業では、温泉旅館が好調なサービス業と野菜類の輸送が増加した運輸業で業況改善。

製造業	食料品		パンは、値上げにより客単価が上昇するも、客数が減少し売上は前年並み。菓子は、週末は好調な一方、平日は不調で売上・収益ともに減少。製麺は、原材料値上げを販売価格に転嫁できず業況悪化。酒造は、普通酒の大幅な売上減少に伴い売上減少。食肉は、電気代、重油代などの値上げによる経費増加が収益を圧迫。
	繊維・同製品		桐生織物は、輸出向けが低調に推移しているが、婦人服地と和装織物は展示会・品評会への期待感あり。伊勢崎織物は、和装織物需要が低迷しているが、広巾織物の活発な事業展開が続く。ニットは、春物の最盛期だが、原料となる糸の入荷待ちの状態が生産が滞り、売上が伸び悩む。繊維製品は、売上・収益ともに減少。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは、耐震改修促進法改正による改修需要増加に期待感あり。生コンは、公共工事の多い地域で出荷順調、その他の地域で低調となり前年並み。コンクリート製品は、河川工事や団地造成など大型工事納入のピークを迎え売上大幅増加。砕石は、八ッ場ダム関係は堅調だが、全体的な業況感悪化傾向。
	機械・金属		総じて、米中貿易摩擦の影響を懸念している。電機関連は、大手の業績下方修正を受け、関連企業に危機感。自動車関連は、輸出減少や原材料価格高騰など厳しい状況が続き、SUBARU関連は、リコール問題、部品の不具合発覚による操業停止が尾を引いている状況。鍍金は、受注減少に歯止めがつかない。
	その他の製造業		木材は、荷動きがやや低調、原木の売上単価が低下し、売上・収益ともに減少。紙加工品は、業況感にはバラツキがあるものの全体的に低調、稼働日が少なかった影響もあり売上減少。ゴム製品は、売上・収益ともに前年並み。印刷は、月後半に年度末需要があり多少稼働率は上昇したが、全体的には低調な推移となる。
非製造業	卸売業		高崎・前橋卸団地は、売上・収益ともに前年並みに推移、引き続き人材確保が課題。太田卸団地は、一部において売上増加となるが、人手不足などにより経費が増加し、全体的な業況は悪化傾向。農産物卸は、暖冬の影響により野菜の安値相場が続く、売上・収益ともに減少。水産物卸も、売上・収益ともに減少。
	小売業		中古車オークションは、大型オークションが好評となり、売上・収益ともに増加。燃料小売は、原油価格上昇により仕入・販売価格ともに上がり売上・収益は前年水準を維持。生花小売は、物日もなく花が長持ちする季節のため低調に推移。商店街は、暖かな日が続いたものの売上増には結びつかず、業況悪化が続く。
	サービス業		温泉旅館は、大雪もなくキャンセルがあまり出なかったことや、インバウンドの入込が好調なことなどから先行きに明るさがみられる。桐生・みどり市域における不動産取引は二極化が進んでおり、専業の組合員は好調な一方、兼業の組合員は苦しい状況。自動車整備・建築設計は、売上・収益ともに前年並みに推移。
	建設業		建設工事は、公共工事減少、民間需要の停滞が続く。塗装工事は、大規模工事への県外業者参入により、厳しい業況が継続。解体工事は、都内の五輪関連工事の影響でボルトが不足し工事の遅れが発生。鉄構は、高い稼働率が継続しているが、鋼材等の納期が長期化している状況。電気工事は、高齢組合員の脱退あり。
	運輸業		原油価格上昇を受け各種燃料価格も上がったため、今後の価格動向を注視している。野菜関係は、気温が平年を上回ったことでブロッコリーなどの露地野菜の育成が良好となり、配送量増加。小口配送は、医薬品PETが前年並み、建築関係が低調、季節物のひな人形の輸送が増加し、売上は前年並み。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 84.2(前月比▲19.3%)「県統計課・1月」
- 住宅着工戸数 1,004戸(前年同月比▲9.1%)「県建築住宅課・1月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.40倍・有効1.78倍「群馬労働局・1月」
 - 大型小売店販売額 207億円(前年同月比▲1.5%)「経済産業省・1月」
 - 消費者物価指数(全国) 101.5(前年同月比+0.2%)「総務省統計局・1月」
- 〈鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数〉